

## 妊婦

項目	日本版救急蘇生ガイドラインに盛り込むべき内容	採用の理由、および指導上の留意点など
心肺蘇生中の左側臥位の角度	15度程度、左方に傾ける。	G2000では30～45度となっており、これでは胸骨圧迫を効果的に行うことは難しい。 15度で十分であるとの報告がある。
気管チューブの太さ	通常よりも0.5～1mm細いチューブを用意する。	
除細動のエネルギーなど	通常の成人ALSにおけるエネルギーに準じる。	妊婦でも胸腔内インピーダンスの変化がない。